

4. 良好な景観の形成に関する方針

4-1 景観形成のルール

「ふるさとの風景」を育むため、中之条町の風景を構成する要素すべてにつながる景観形成の5つのルールを柱として、良好な景観の形成に関する方針を設定する。

◆ まちなみのルール ◆

風景の視点 <建築物等の単体だけではなく、まち全体の空間、連続性を意識する>

- ◇ 後背に広がる自然や隣接する建築物等と調和すること。
- ◇ 歩行者の視点に合わせた空間の工夫を推進すること。
- ◇ まちなみのリズムを乱さないこと。
- ◇ 表の空間と裏の空間を意識して使い分けること。

◆ 個性のルール ◆

建築物それぞれの主張の視点 <各自が考える個性あるデザインを推奨する>

- ◇ それぞれが個性を出しながら、新たなアイデアを導入すること。
- ◇ 個性の主張は周辺の「群」としての風景に溶け込むこと。
- ◇ 商店街等では、歩行者が楽しめる工夫を凝らすこと。
- ◇ 夜のまちを演出する照明等を導入すること。

◆ 材料・資材のルール ◆

建築物等の素材の視点 <地産地消の精神を重んじる>

- ◇ 既存の建築物等に使用されてきた建材を利用し、まちなみの一体性を維持すること。
- ◇ 中之条町あるいは群馬県で生産される材料をできるだけ使用すること。
- ◇ 適切な維持、点検、管理を行うこと。
- ◇ 老朽化が進んだ場合には、速やかに補修を行うこと。

◆ みどりとの共生のルール ◆

自然緑地、公園、民地緑化の視点 <地球環境にも配慮した景観を形成する>

- ◇多くの緑に囲まれていることを意識しながら、街中(庭先等の民地内)も工夫して緑化すること。
- ◇植栽をする際には、原則として地域固有の種や苗を使用すること。
- ◇地域の風景を明るく、豊かにする草花の植栽を継続すること。
- ◇農地の緑地としての機能を守り、ふるさとの風景を次世代につなげていくこと。

◆ 協力してつくる風景のルール ◆

町民が協力してつくる風景の視点 <景観を通じたコミュニティの充実を図る>

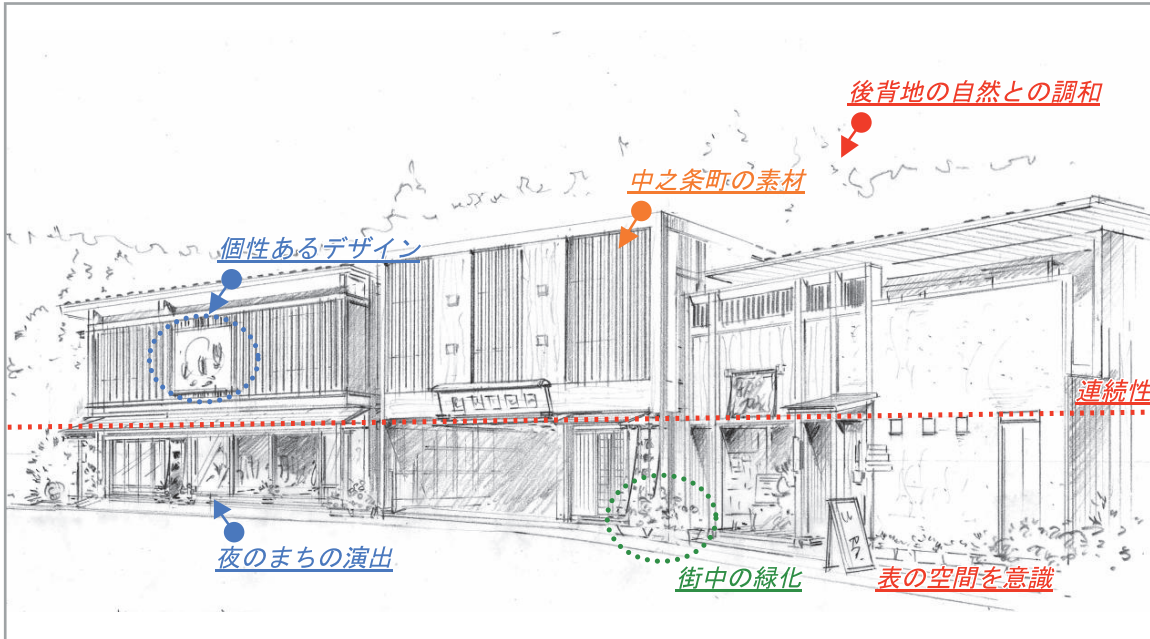
- ◇景観計画の内容を理解して、さらに各地域の理想とする景観形成に協力すること。
- ◇地域内の住民が互いの努力や取組みに対して話し合い、地域の景観の質を高めていくこと。
- ◇町民、事業者、行政が互いを尊重しながら景観形成を進めること。
- ◇地域のイベントや景観学習等の機会には積極的に参加すること。



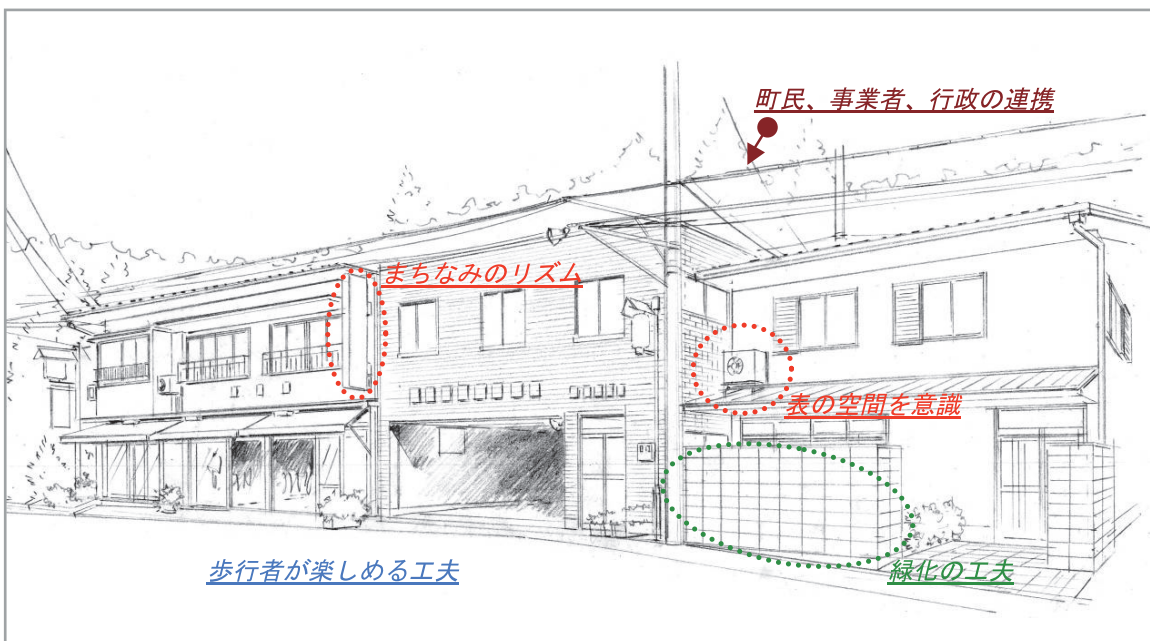
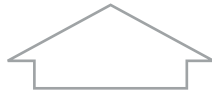
4-2 目指すべき理想の景観「ふるさと風景ノート」

景観形成に際する将来像を地区の全員で共有するために、景観形成のルールに則して「ふるさと風景ノート」に理想とする景観や避けるべき景観を描く。なお、以下に示す将来像はスポット的に描かれているが、各自が景観計画の内容を理解し、少しずつ地域の景観の質を向上させることで、地区全体さらには町全体に波及させながら景観形成を進めていくものである。

四万温泉地区

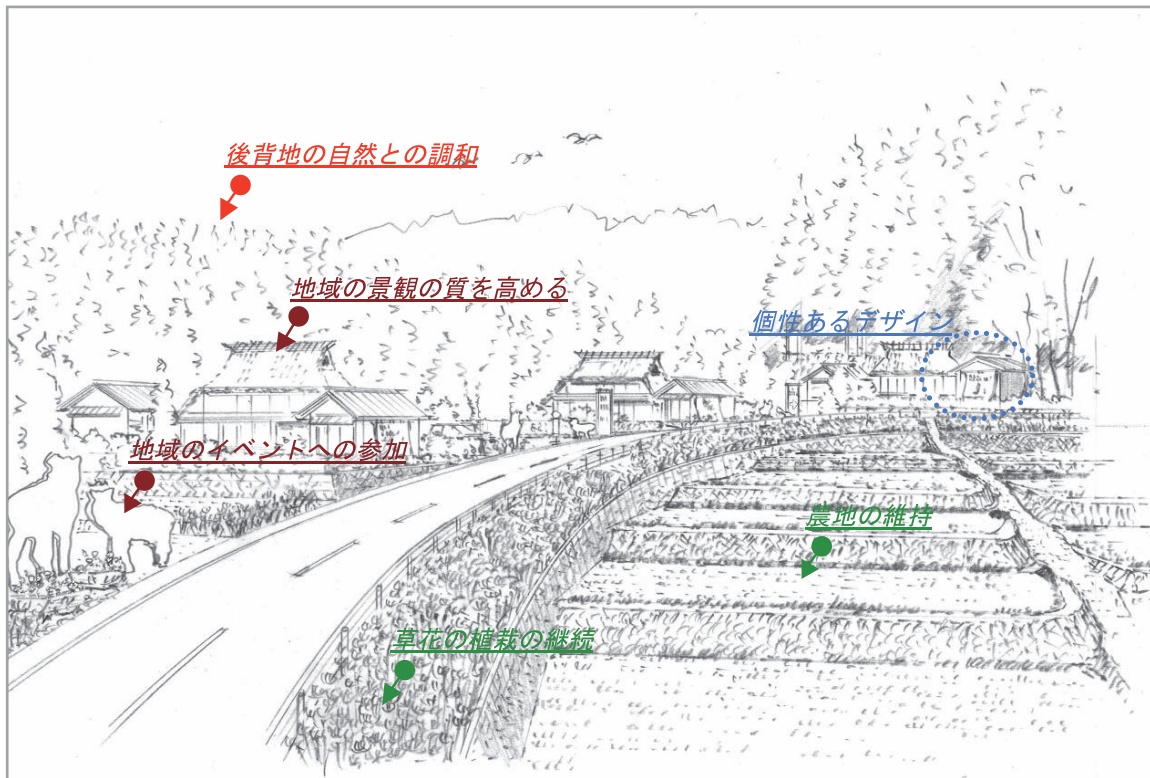


● 理想とする将来像



● 現況

伊参地区



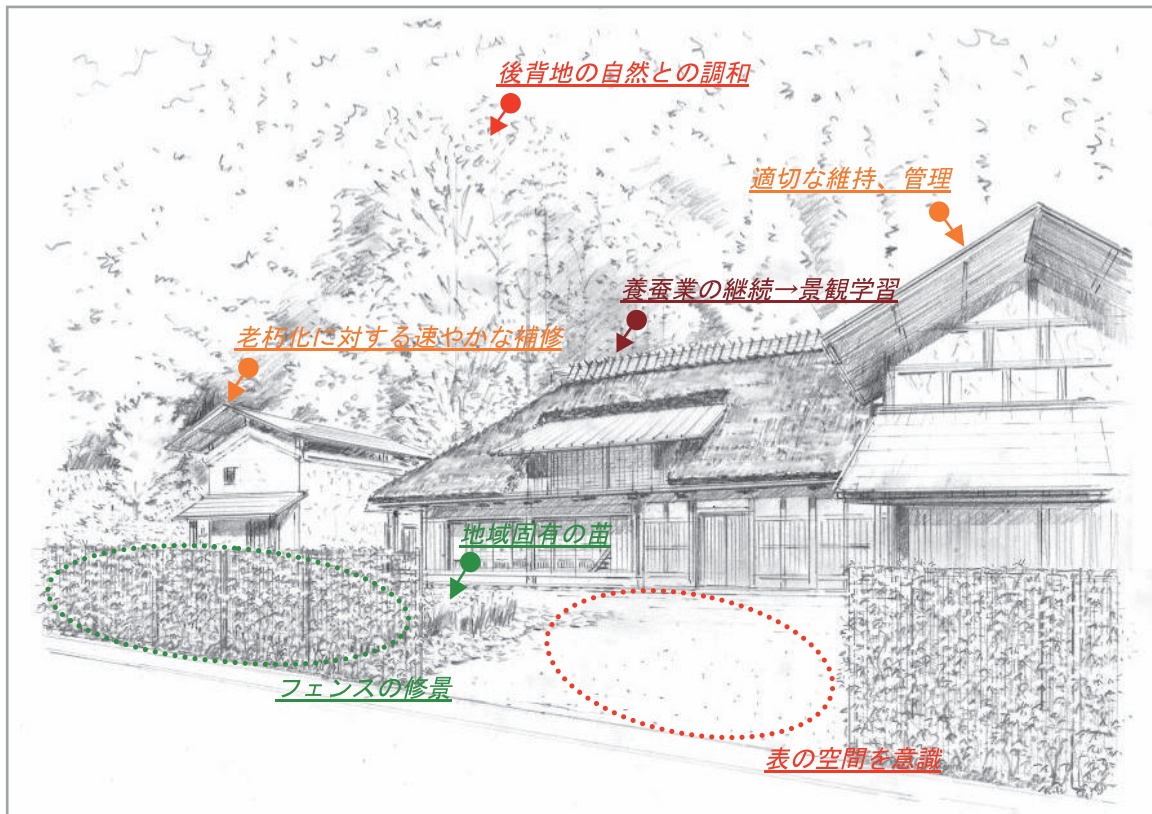
● 理想とする将来像

王子原地区

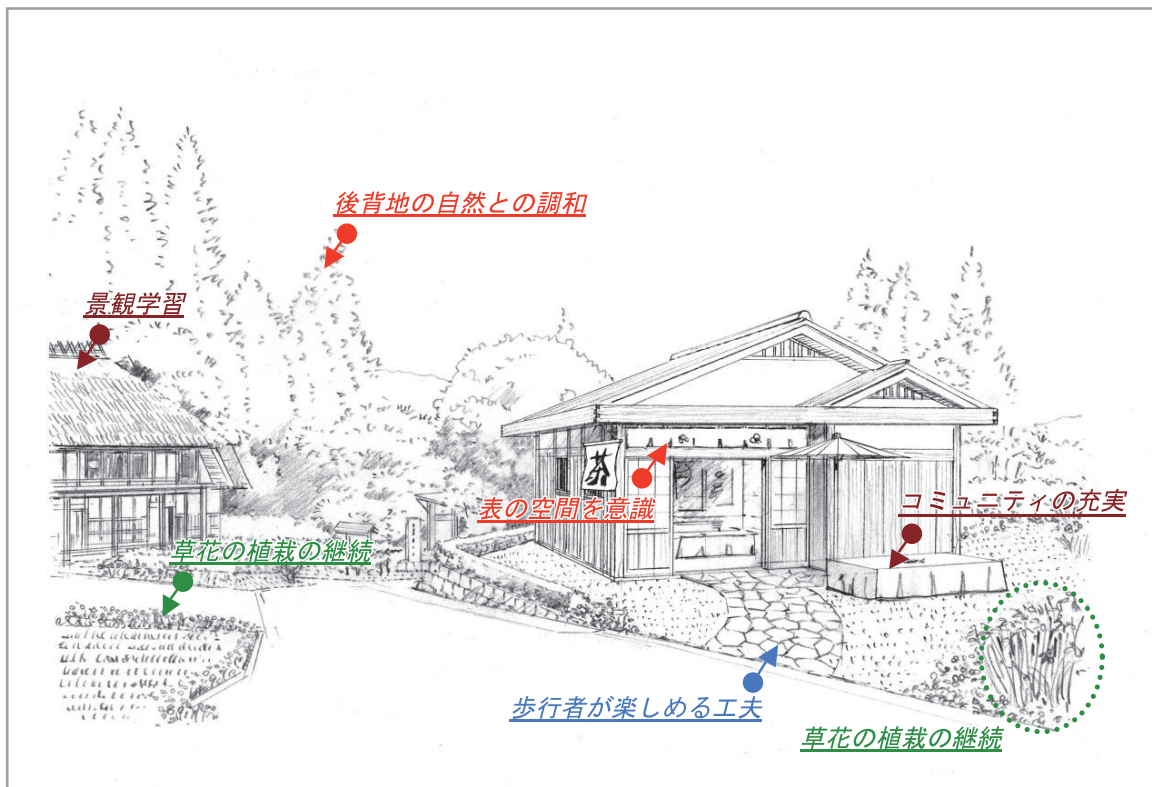


● 理想とする将来像

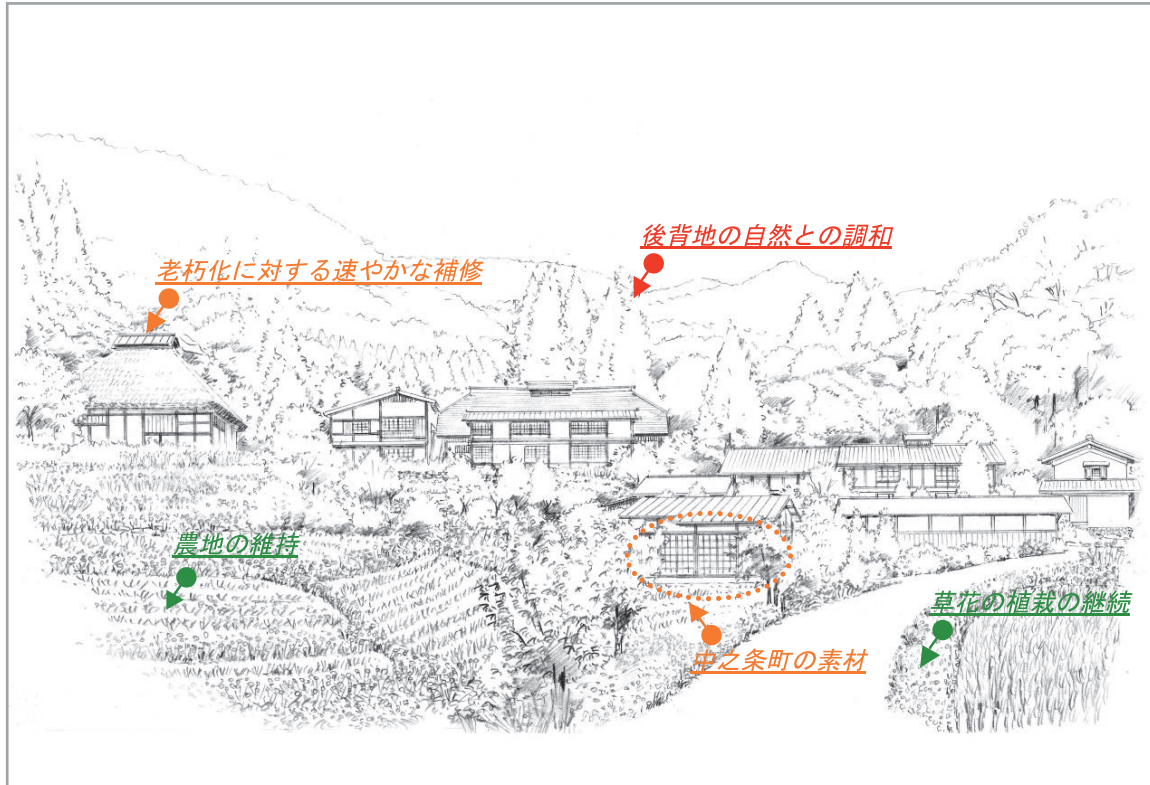
富沢家住宅周辺地区



● 理想とする将来像

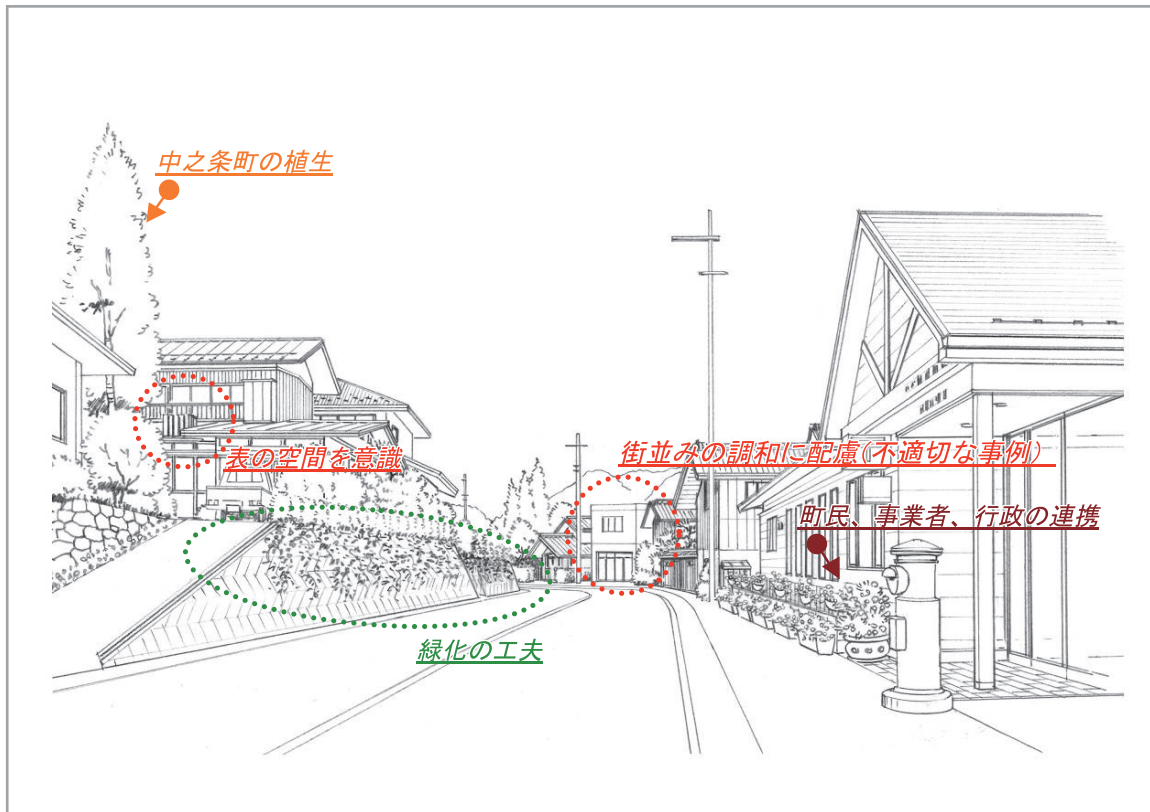


● 理想とする将来像

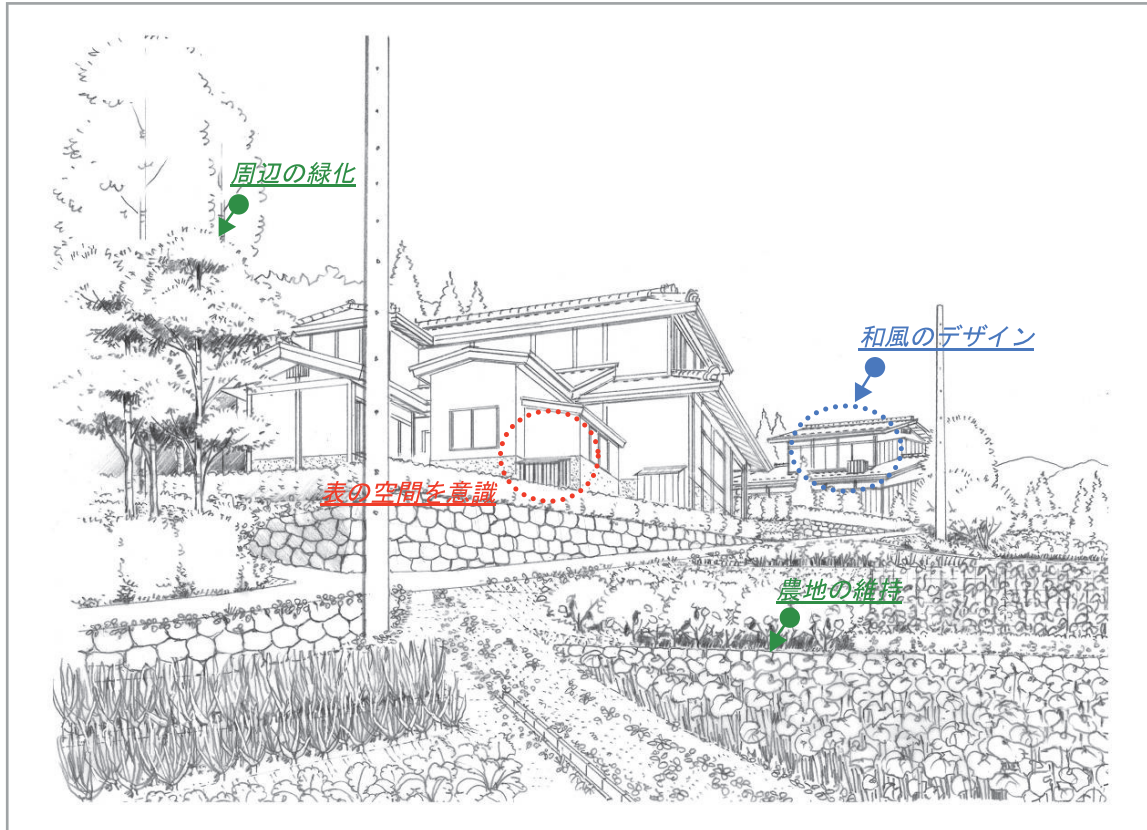


● 理想とする将来像

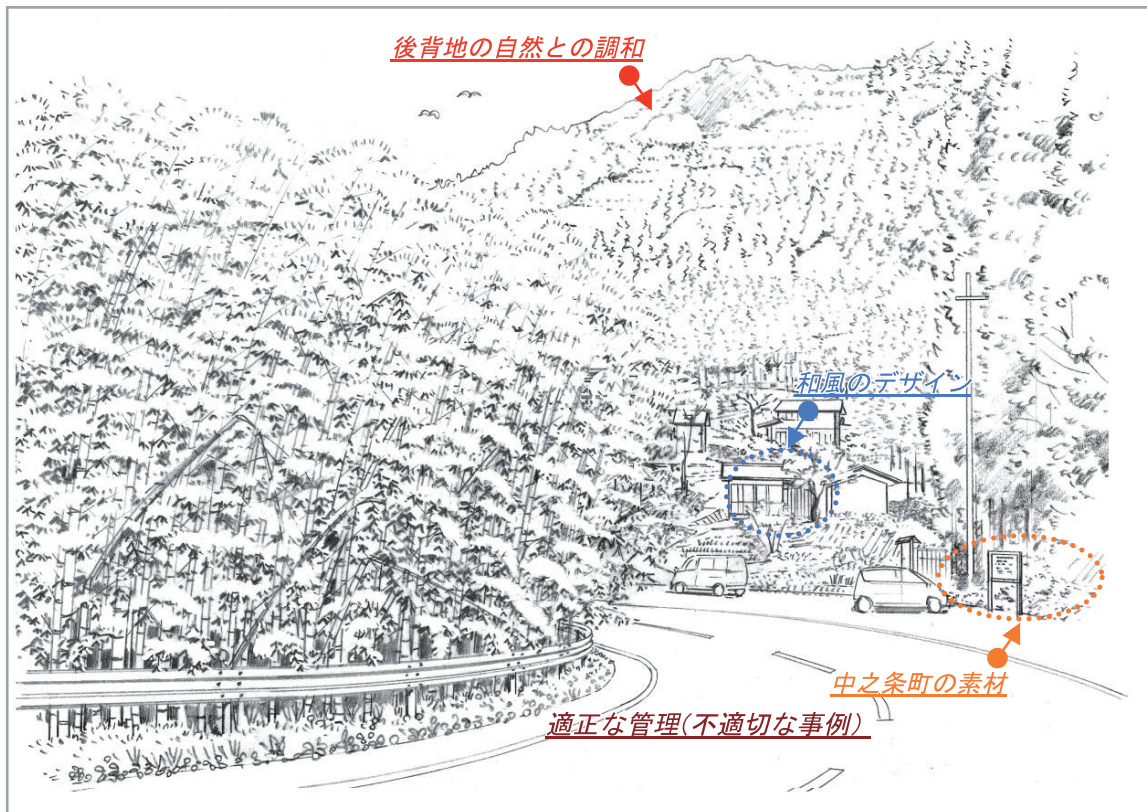
六合地区



● 理想とする将来像

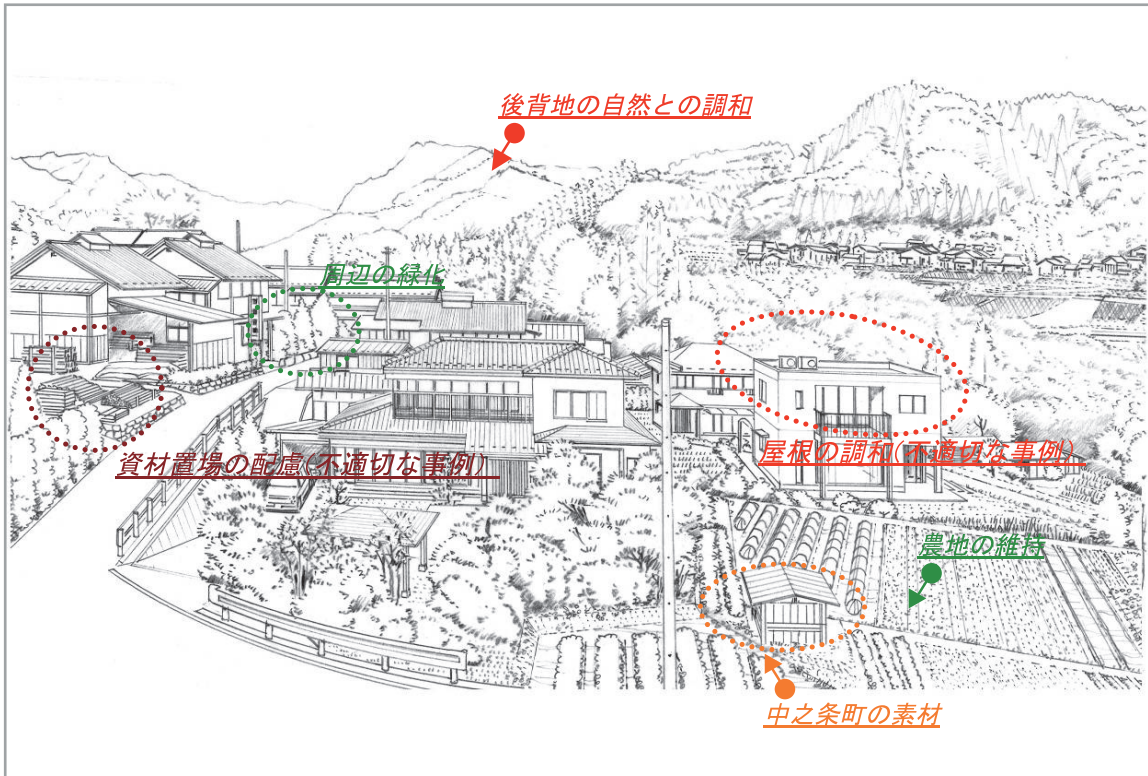


● 理想とする将来像



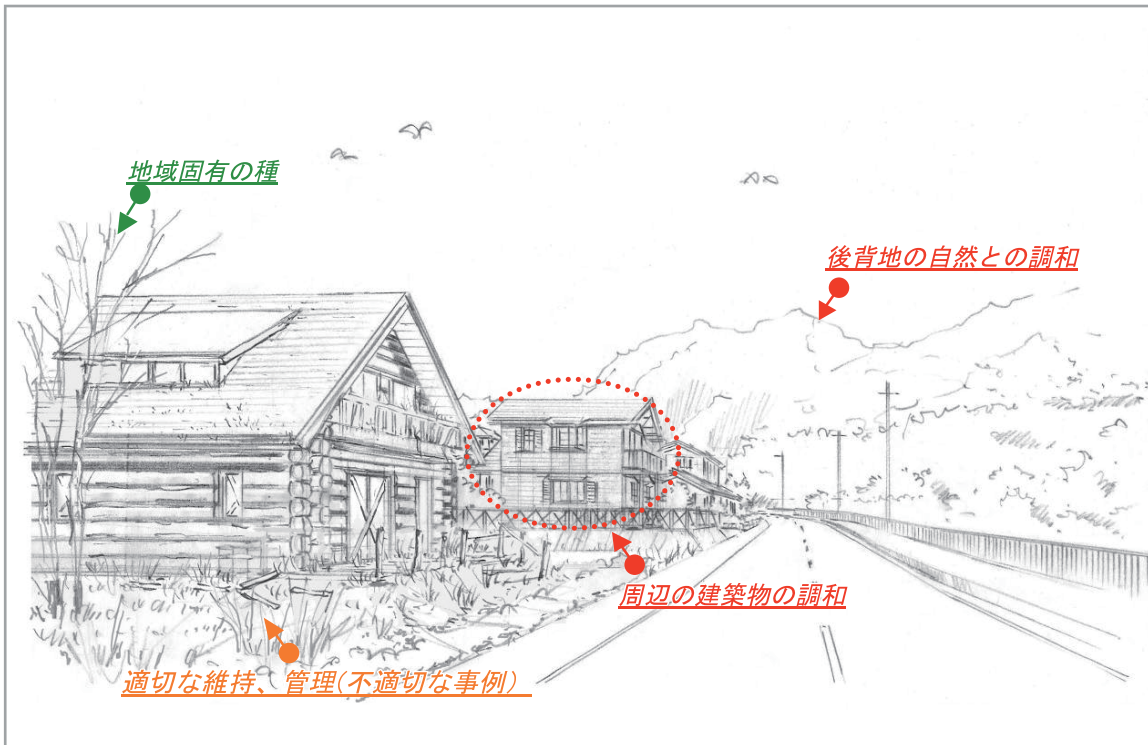
● 理想とする将来像

赤岩地区



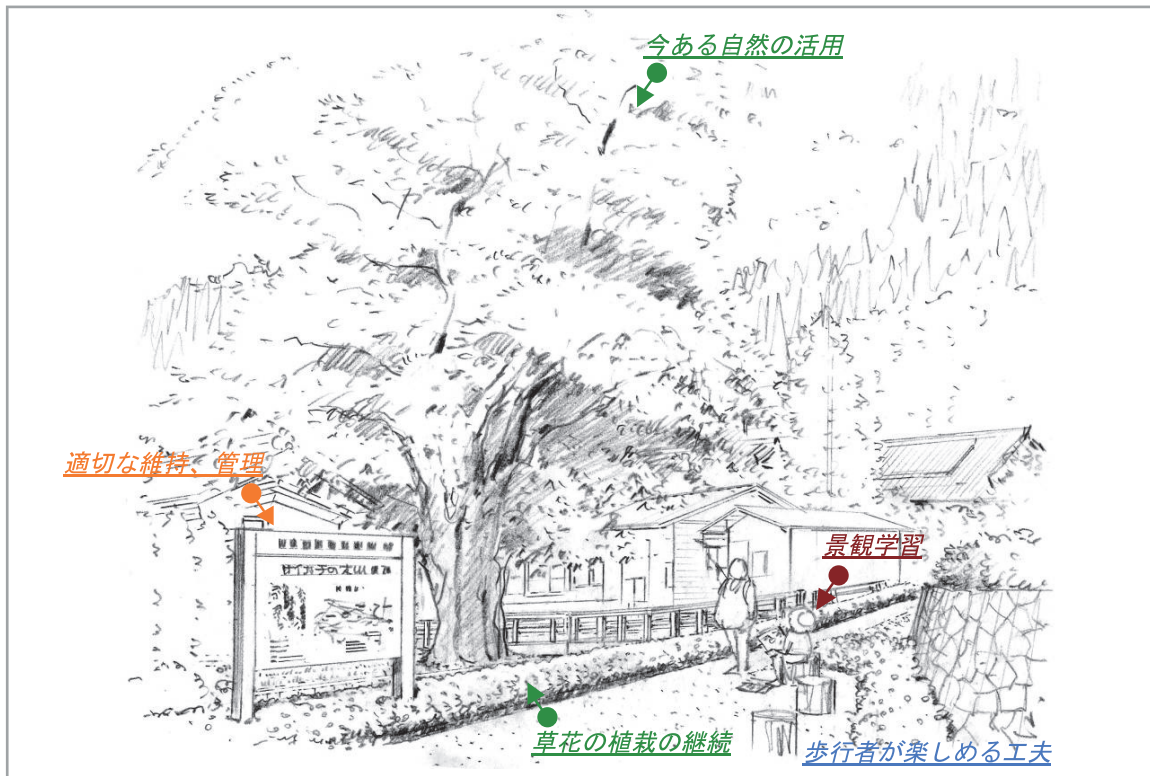
● 理想とする将来像

四万街道沿道地区



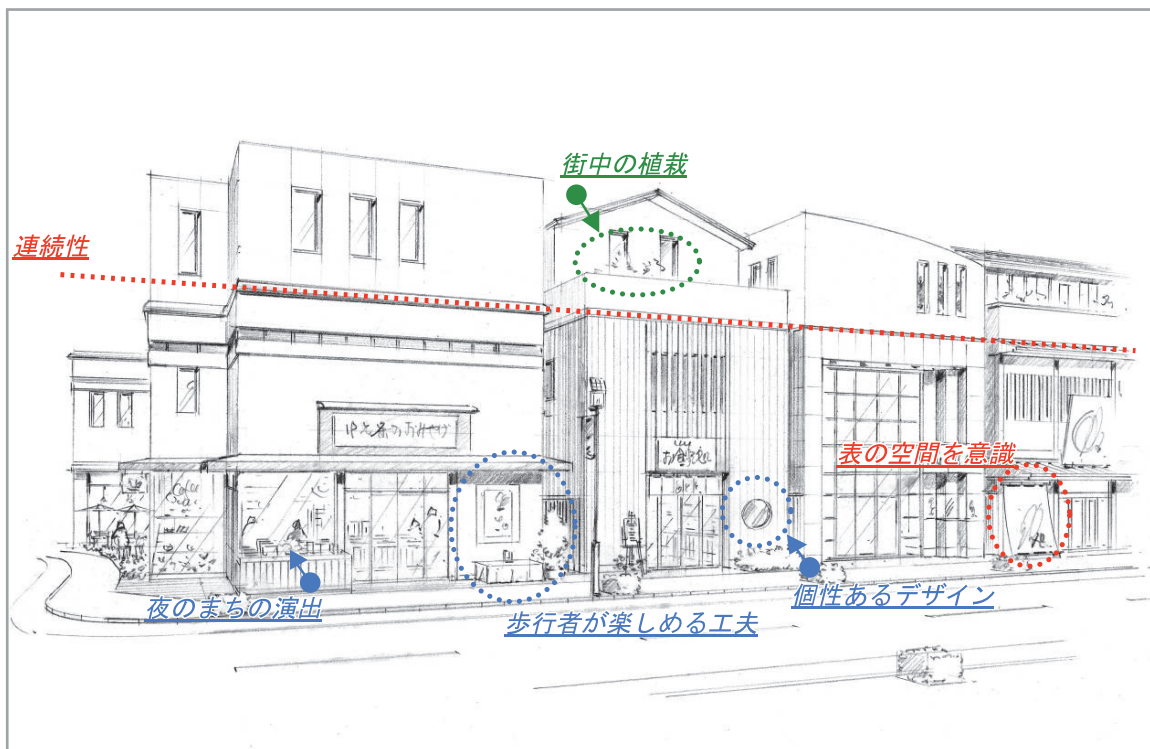
● 理想とする将来像

長野街道沿道地区



● 理想とする将来像

中之条停車場線沿道地区



● 理想とする将来像